

もっと身近に！もっと便利に！ 公共施設の行政機能を再編・拡充



みやじま謙後援会 ニュース

新つばさ通信

第3号

千代田ショッピングモールに「市民窓口センター」

かすみがうら市は、より市民に寄り添った市政運営を実現するために、行政サービスの拠点を再編させるプランを発表しました。

来月11月オープン

公共施設の老朽化対策が課題となっており、かすみがうら市。多くの施設で寿命が近づいてきていますが、その全てを新しくすることは財政的に不可能です。そこで、今ある施設をできるだけ長く使うとともに、全体の数を減らしながら、民間の力も借りて、行政サービスの維持、向上を図る

ていくというのが宮嶋市長の方針です。そこで8月に打ち出されたのが、「行政機能拡充プラン」です。これは、千代田ショッピングモールの書店ワンダー・グールの建物が、今年いっぱい空き店舗となることから、多くの市民が日常的に訪れる場所であることに着目し、この空き店舗に、現在の千代田庁舎の1階部分の窓口機能を移転することを核としています。

移転対象となるのは市民課、国保年金課、保健福祉部、納税課、税務課、会計課などです。商業施設エリアに市民窓口を設置することによって、利便性の向上を図るといわれています。

この「市民窓口センター」は、来年11月頃のオープンを目指すとのオープンを目指すとしていきます。

下稻吉中学校区には中央出張所があります。が、市民窓口センターが設置された後も、中央出張所の窓口機能は一部残し、高齢者対応などに特化したサービス体制を整えるとしています。また、長年にわたり設置箇所が定まらなかった下中地区公民館は、働く女性の家に位置づけられます。

千代田庁舎の1階には、庁舎の裏側にある増築棟と防災センターから総務部と監査委員事務局が移動し、増築棟と防災センターには、老朽化が著しい消防本部と西消防署が移転することになります。

消防自動車の出入りのために、道路の接続を改修する必要がありますが、これによって、西消防署の建て替え費用が当面の間不要となるとともに、市役所本体と消防本部との連携も強化されます。

千代田出張所を新設

また、老朽化が進む千代田公民館は、来年4月に図書館分館とともに旧・志筑小学校へ移設し、同11月には行政窓口として千代田出張所も新設されます。

千代田義務教育学区には歴史的な遺跡も多く、また市民活動も盛んであることから、空き教室を活用した市民スペースも確保される見通しです。

今後、市内全域での公共施設の再編が進みます。市民サービスの機能を維持しながら、費用を節約するための施設の統廃合は避けられません。例えば、わかぐり運動公園や霞ヶ浦地区の総合運動公園、歩崎の森林公園もほとんどが借地であり、将来を考えると再編の対象となることは十分に考えられます。

そうやって固定費を削減して、なんとか市民生活の支援費用を捻出していくことが、これからの方向性となることでしょう。



市民窓口センターが入る予定の千代田ショッピングモール

フードバンク活動にご協力をお願いします！

【受付場所】 あじさい館入口：働く女性の家ロビー ※いずれも開館時間内

みやじま謙はNPO法人フードバンク茨城の会員です



インタビュー 就任1年を振り返って 持続可能なかすみがうら市を目指して

将来に向かって果敢に挑戦します！

宮嶋市長が誕生して1年が経過しました。この1年を振り返りながら、これからこの未来についてお話を聞きました。

ガバナンス不足

● 昨年の市長選挙は4名の候補による激戦でしたが、その戦いを制して市長に就任し、1年が経過しました。

宮嶋 もう1年が経つたんですね、月日の流れの速さに驚いているのが正直な感想です。

● 振り返って印象は？
宮嶋 不祥事案件への対応が多かったように思います。

スクールバスで下校する小学1年生を、停留所以外の場所で1人で下車させてしまった事案。市長選挙と市議会議員補欠選挙の投票用紙を同時に渡し、投票箱も分けなかった事案。市が発注する公共工事の入札に関して、予定価格の積算ミスで入札を取り消した事案。随意契約（入札によらない契約）に関して、

複数者に見積もりを依頼すべきところを、1者に取りまとめさせた事案。高校生の医療費助成について、窓口負担分が支給されていなかった事案。社会福祉協議会の一部の職員給与が、規定以上に変更されていた事案。

● ずいぶんありますね。
宮嶋 最近では、給食用のパンに楊枝が入っていた事案、学校プールで足のケガが続出した事案など、市民の皆様にも多くのご心配をおかけし、申し訳なく思っています。

● なぜこんなに多くの不祥事が発生したんでしょうか。
宮嶋 個々の不祥事には、それぞれ個別の原因があるのですが、委託業者へ任せっきりによるチェック不足や、長い間の業者との馴れ合いなど、職員の認識の甘さと、役所内のガバナンス（統制）不足に起因する内容がほとんどです。

首長が変わり、これまでの不具合が膿となつて噴出したのではない

でしょうか。

● 積極的に情報を発信する姿勢も影響しているのでしょうか？
宮嶋 それもあると思います。以前でしたら表に出さずに処理していたこともあったかも知れませんが、そういう体質は、変えなければならぬと思います。

● 隠しているのは、良くならない、と。
宮嶋 そうです。なので私はこの際、悪いニュースも隠すことなくオープンにすることによって悪い膿は出し切ることが大切だと思っております。そして、新たな体制と姿勢で進んでいくために、職員の意識改革と、制度改革、機構改革に取り組んでいます。

万全の新体制

● その体制づくりの基礎を担う人事として、井坂庄衛教育長と飯塚一政副市長が誕生したことは、これからの市政運営にとって、最高の布陣が組めたんじゃないでしょうか？
宮嶋 井坂教育長は地



空き家再生チーム発足！若い力でかすみがうら市に活気を！

元生まれ地元育ちで地域からの信頼が厚いことに加え、県南教育事務所長、千代田中学校校長なども歴任し、教育現場のみならず、行政経験も豊富です。

● かすみがうら市の将来を背負って立つ子ども「人間力」を育てる最高責任者として、余人を持って代えがたい存在、ということですね。
宮嶋 その通りです。また飯塚副市長においては、茨城県職員として最先端技術の振興、

企業誘致、復興事業などに携わったのち福祉部長の重責を担ってきたマルチプレーヤーです。これらの経験が、かすみがうら市の未来を切り開くために最強の武器となること間違いありません。

● 特にこれからは、民間や国、県との連携が不可欠です。
宮嶋 これまでの縦割り行政では対応できない部署横断的な新しい事業を積極的に展開していかなければなりません。着任直後から、

市民生活を支える

● かすみがうら市の新たな取組も進んでいきますね。
宮嶋 コロナや物価高騰の影響による市民生活を支援するために、上下水道料金の減免、子育て世帯特別給付金、

農業者への燃油高等対策支援金、主食用米生産者支援金、学校給食費の減免など、国の補助金を活用した支援策に取り組みしました。

● 電気代なども上がりましたから、市民の皆さん、助かったでしょうね。
宮嶋 市独自の政策としては、0〜2歳児の第2子以降の保育料無料化、乗り合いタクシーの値下げと常磐線を越えての利用再開、自転車によるまちづくりを促進するために、神立駅周辺の駐輪場の利用

料助成、通学自転車購入費助成を行い、令和6年度からは通学自転車の無償貸与にも取り組めます。

地域おこし協力隊などの制度を活用して空き家再生チームも発足しました。

オーガニック給食

●将来に向けた挑戦も始まりました。

宮嶋 5月にはゼロカーボンシティ宣言を行い、脱炭素社会へ向けて本気で取り組んでいく姿勢を鮮明にするとともに、全国オーガニック給食協議会に加盟して、オーガニック給食実現に向けたスタートを切りました。

●オーガニック給食は、良いのは理解できるんですが、なかなか実現が難しいとも聞いています。

宮嶋 はい、おっしゃるとおりだと思います。

しかし、千葉県いすみ市や、茨城県でも常陸大宮市など、実際に取り組んで成果を上げている自治体がありますから、ぜひ学ばせていただきながら、進めていきたいと考えています。

●どのように進めていかれますか？

宮嶋 6月には、民間稲作研究所の館野理事長を講師にお迎えして、有機稲作の講習会を行いました。

●実質的なキックオフイベントですね。

宮嶋 そうですね。参加者の中から、ぜひ有機米に挑戦したい、という方も現れて、有意義な会となりました。

今後は、市のオーガニック給食協議会のような組織づくりに取り組んでいきます。

●スケジューリング的には、いかがですか？

宮嶋 できれば今年度、組織の立ち上げをして、来年度には、具体的な計画と準備、生産者の拡充と勉強会、そして実地へと進みたいと思っています。

ですから、令和7年度には有機志向の作物を給食に提供を始めたかと考えています。

●その他の取り組みとしては、いかがでしょうか。

宮嶋 市内に立地する企業18社と、教育支援に関する連携協定を締結し、子どもたちのキヤ



あゆみ祭りでの上棟式。多くの人出で賑わいました

リア教育にお手伝いをいただきながら、企業の地域との関わりを深める仕組みづくりを行いました。

●企業にとっても、自社のPRや雇用確保、地域貢献の面でもプラスになるでしょうね。

宮嶋 これらの取り組みは、人口減少社会を生き抜くためには自治体として避けて通れない施策であり、のんびりと他の自治体の動向を見ている従来の姿勢は許されません。未来を先取りする積極的な動きを、これからもつと加速させていきたいと考えています。

市民の声に寄り添う

●宮嶋市長は、市民の声に寄り添う市政運営を掲げています。

宮嶋 市民の皆さんとの交流という面でも、新しい試みを開始しました。その一つが、地域ミーティングです。

市内6カ所です。市の最新の動きをご報告するとともに、地域の問題や要望を聞く機会として実施し、とても実り

多い会合となりました。これは今年度以降も継続していきたいと考えています。

●大井川和彦知事を講師にお迎えして開催した「茨城県とかすみがうら市の未来を考えるつどい」も良かった。

宮嶋 ありがとうございます。知事には熱のこもったお話をいただき、県と市の将来を予感させる、象徴的なイベントではなかったでしょうか。県と市が同じ方向を向き、力を合わせることの重要性を感じさせた2時間でした。

●イベントの復活もありですね。

宮嶋 「あゆみ祭り」は、開催日が7月に移されてしまった経緯がありました。地域の意向にしっかりと向き合い、今年度は例年より8月16日の開催として、今年度は例年より8月16日の開催として、とても多くの来場者で賑わいました。

●職工組合の上棟式や出島音頭などの催しも盛り上がっていました。

宮嶋 地域の力を再認識する良い契機となりました。

ました。11月3日開催予定の「かすみがうら祭」も、大いに楽しみたいですね。

人生の総決算として

●最後に、今後の抱負などをお聞かせください。

宮嶋 かすみがうら市の将来にとって、もっとも大きな課題は「持続可能性」だと思います。つまり、人口減少社会にあつて、縮小する経済状況を踏まえ、市民生活をどのように支え、地域を発展させていくか、これこそが最大のテーマです。

●公共施設の更新問題もあります。

宮嶋 バブル時代を含め、経済成長時代に造られた公共施設が、老朽化によって更新の時期を迎えます。しかし、すべての施設をそのまま維持することはできません。建設時に国の補助金があったとはいえ、その維持費の負担が財政を圧迫しています。市内に多く存在する借地問題も、解消しなければなりません。

●「行政サービスを下させずに総量削減に取り組み、かつ、企業誘致によって税収と働く場所を確保し、移住、定住を促進する」……読めばたった1文ですが、これを達成するのは容易なことではありませんね。

宮嶋 その通りです。これまでの「ハコモノ行政」「バラマキ行政」は、許されないことはもちろん、そもそも、その財源がありません。●ときには市民と痛みを分かち合う必要も出てくる、と。

宮嶋 はい、そうです。しかし、「ノーペイン・ノーゲイン（痛みなくして見返りなし）」です。困難を乗り越え、将来に向かって果敢に挑戦し続けるその先に、明るい未来があると信じています。

今年8月、おかげさまで私は還暦を迎えました。これまでの人生の総決算として、全力で臨む覚悟です。これからも、かすみがうら市へのご支援をよろしくお願ひします！

すべての生徒が経済負担なく通学できる環境を 通学自転車シェアリング事業

通学自転車は無償貸与

中学生の通学自転車を、来年度から無償で貸し出す制度、通学自転車シェアリング事業が発表されました。

中学校への通学方法は、スクールバス、自転車、徒歩があります。生徒の家庭だけが、通学自転車の準備を余儀なくされ、その費用負担と不公平感が問題となっていました。

そこで宮嶋市長は今年度、自転車購入費の半分（上限3万円）を助成しましたが、来年度からは、その支援策

をさらに推し進め、「すべての生徒が経済的負担をせずに通学できる環境を整えたい」と、新制度を考えたこととです。

大切に乗り継いで

通学自転車シェアリング事業の仕組みはこうです。希望する生徒は、整備された自転車を3年間無料で借りることができ、大切に乗り継いで、市へ返却します。市はそれを再整備して、次の生徒へ貸し出す、というものです。貸し出される自転車は、安全に整備されたもので、新品とは限りません。



通学自転車の値段は6～10万円とも

宮嶋市長は、「今の自転車は昔と違い丈夫で寿命が長いので、大切に乗り継いでもらうことが、これらの共有社会を学ぶ教材にもなる」と話しています。

年に1回の定期点検は市の費用で、修理費用は使用者負担となる見込みです。

神立病院誘致へ覚書

新聞でも報道されましたが、昨年6月に市が購入した旧・千代田ハウスマン跡地（約28000㎡）の活用について、かすみがうら市と神立病院が、同病院の移転に向けて協議を進める覚書を締結しました。

覚書の内容は、敷地のうちの約2万㎡に神立病院が移転して新病棟を建設すること、産科医療の開設にも努力することを目標に、今年11月30日までに具体的な協定締結を目指す、というものです。

宮嶋市長は、「これまで市の医療環境を支えていただいた神立病院の市内移転が実現すれば、市民の医療と福祉の水準がさらに高まる」と、期待を寄せています。

さらに産科が実現すれば、出産環境が大幅に改善され、若い世代の定住も進むでしょう。

みやじま謙の 明日への思い

9月19日から、タクシー運賃が改定されました。内容は、初乗り2キロで740円だったものが、1キロ500円となり、実質値上げです。

かすみがうら市ではこれまで、60歳以上で運転免許を持たない方や障害をお持ちの方に、年間52回の初乗り助成をしてきました。運賃が値上げされても、利用者の負担増はできるだけ避けたいというのが私の考えです。

そこで今年度発行した助成券（740円と記載）で、これまでどおりの距離、約2キロまで（900円分）を無料で乗れるように対応しました。

これからも安心してお出かけ頂きたいと願っています。

め、県の自治紛争処理委員会による調停を求め、その申請を行いました。申請が受理されると、紛争処理委員が双方の言い分を聞いたうえで、原則60日以内に調停案を提示することになっています。

宮嶋市長は、「第三者の公正な判断を仰ぎ、この異常な状況を一日も早く解決したい」と話しています。

旧焼却施設解体費問題、県へ調停申し立て

かすみがうら市は、石岡市、小美玉市、茨城町と組合を構成し、共同で新しいごみ焼却施設を建設し、運営しています。

しかし同じ場所に、かつて石岡市と小美玉市が使っていた古い焼却施設が残っており、この解体費の負担について、かすみ

うら市と一部事務組合との間で見解が一致せず、解決しないまま時間が経過しています。かすみがうら市は「使った自治体で解体すべき」と主張し、一部事務組合は「坪井市長時代にかすみがうら市も負担することと合意済」と、双方が譲らない状況が続いているのです。

宮嶋市長は、この膠着状態を打開するた



かすみがうら市と土浦市
力を合わせて未来を拓こう！

連携強化で
地域をもっと元気に！